

# 第3回検討会 ワークショップまとめ

## 大きな規模の学校

### 良いところ

#### 子どもたちについて

- ・友だちがたくさんできる 9人
- ・学級対抗など切磋琢磨する環境が作れる 2人
- ・多くの個性が接しあうことができる
- ・子どもが主体的になれる
- ・クラス替えができる
- ・男女比が偏らない

#### 先生たちについて

- ・いろいろな先生に出会える 4人
- ・専科の先生も配置でき、先生の資質が上がる 3人
- ・多様な教えや学びを提供できる 3人

#### 学校について

- ・学校行事ができて活気がある 6人
- ・部活動など多くの中から選択できる 2人

#### その他

- ・複数の学校を統合することで、将来の建設費が少なくなる
- ・PTAの役員を多くの人ができる

### 困るところ

#### 子どもたちについて

- ・人間関係が希薄になる 3人
- ・生徒が全体の中に埋没してしまう
- ・リーダーシップをとる児童が決まってくる
- ・学力の差が開いてしまう

#### 先生たちについて

- ・生徒に目が届かない 4人
- ・先生との人間関係が弱い 3人
- ・細かな配慮や支援ができない 3人
- ・職員間の共通の意識づくり 2人
- ・先生方の連携に時間がかかる

#### 学校について

- ・施設を十分に使えない 4人
- ・学校行事の際まとまりがなくなる 3人
- ・時間がゆったりと流れない
- ・校内での安全性

#### その他

- ・広域になると通学区が広がる 3人
- ・音楽会等家族の参加人数が制限される
- ・避難所としての機能が発揮されない

## その他

### 学校規模・学級編成(今日の段階で)

- ・小学校は1学年3クラスが良い 5人
- ・小学校は1学年2~3クラス程度 2人
- ・小学校は1学年2クラスで良い 2人
- ・中学校は1学年4~5クラス程度 2人
- ・1クラス20~25人程度
- ・東小くらいが良い
- ・全校で250~500人規模が良いのでは
- ・小学校1.2年生は少人数学級で
- ・小中一貫で考える

### 課題

- ・先生の負担が多く純粋な教育や保護者との相談はできているのか 5人
- ・地域との連携や孤立する家庭への支援 3人
- ・教育の多様化による先生のストレスや問題行動 2人
- ・通学区見直し、歩道など通学路の整備 2人
- ・いろんな保護者への対応に苦労
- ・トイレに洋式が少ない
- ・校舎が古い
- ・個人情報の扱い
- ・子どもが病気の時に預ける場所がない
- ・教室でのストーブとの距離(暑い寒い等)

### その他

- ・将来小諸で働くことを考えたり、地域を大切に  
する教育 2人
- ・水明小の芝の維持は大変だが、子どもたちは  
自然を大切にしている
- ・各学校の歴史、伝統と将来人口の先読みの  
バランス
- ・保育園、小学校、中学校の連携が大切
- ・給食費の納入状況
- ・PTAの役員は喜んで引き受けているのか

## 小さな規模の学校

### 良いところ

#### 子どもたちについて

- ・友だち同士の絆が深くなる 5人
- ・一人一人に関わってくれる時間が確保できる 2人
- ・発表など子どもの活躍の場が増える 2人
- ・運動会や音楽会で一人一人が目立てる

#### 先生たちについて

- ・子どもへ目が届きやすく学力向上も期待できる 9人
- ・先生たちが全校を把握できる 4人

#### 学校について

- ・学校施設が余裕をもって使える
- ・ゆったりと時間が流れる
- ・社会科見学等動きがとりやすい
- ・協力してやっていける

#### その他

- ・地域を巻き込んだり、地域の協力が得やすい

### 困るところ

#### 子どもたちについて

- ・人間関係が固定化してしまい、出会いも  
少ない 6人
- ・先生の手が入りすぎて頼ってしまう 5人
- ・競争心や向上心が失われる 3人

#### 先生たちについて

- ・先生一人にかかる負担が大きい 3人
- ・先生数が少ない 3人
- ・先生たちの研修の機会が少ない 2人

#### 学校について

- ・学校行事ができない 6人
- ・運動会などが盛り上がらない 3人
- ・PTAの一人にかかる負担が大きい 2人
- ・人口減少による学校の維持
- ・学校の整備、楽器等